妊娠回数と歯牙の健康度との関係

九州大学衛生学教室 (主任 水島 治夫 教授)

九州歯科大学衛生学教室 (主任 荷宮 文夫 教授)

加 来 義 韶
門 脇 智 敏

妊婦の齲歯の発生について、Gerson, Siefert, Liesegang, Ziskin, Hottelin, Bill, Kinney, 山本、荷宮、平田などは齲歯の増加を認めている。Hoffstoroen, Siefert, Schwidt などは妊娠により、母体の歯牙のCaが胎児に移行し、母親の歯が齲歯になると云う。Schour, Robinson, Burket などは妊娠中に歯牙のCaが取り去られるということはなく、Deakins, Loooby は実験によつて妊娠中でも、歯牙の学化的組成は変化しないことを証明し、授乳も同様に齲歯発生の原因としては余り意味がないと両者の関係を否定している。このように妊娠と齲歯との関係について種々云われている。

私共は妊婦1153名の歯牙の健康診断の成績を得たので、妊娠により歯牙の健康度 (D.M.F.T. 数) の増減を観察し、両者間に密接な関係のあることを認めた。成績の概要を発表する。

I 資料と観測方法

本研究に用いた材料は、鹿児島県川内市保健所が昭和30年度に取扱った妊婦である。歯牙の診断は同保健所歯科が扱ったものである。

観察方法は年代を20才代(20~29才)と30才代(30~39才)に区別し、各年代別に妊娠回数を調べた。歯牙はD、M、F、T、を調べた。即ち、Dは欠損歯、Mは喪失歯、Fは加療歯とした。D、M、F、T、は decayed + missing + filled teeth を略したものである。各年代別にそれぞれの妊娠回数別の齲蝕罹患率 (D、M、F、T、) と、平均D、M、F、T、数を比較した。

II 成 績

1. 年代別妊娠回数

調査資料1153名の20,30才代の妊娠回数は表1の如く、20才代が1.74回、30才代が3.37回で、明かに30代が多い。

表1 年代別妊娠回数

妊娠回数	20 ~ 29才	30 ~ 39才
1	221	60
2	132	106
3	78	225
4	19	182
5		97
6		21
7		12
計	450	703
平均	1.74($\sigma=0.93$)	3.37($\sigma=1.30$)

2. 齲蝕罹患率

ここで言う齲蝕罹患率とは、歯牙の不健康率で、D、M、F、T、をもっている人の百分率である。歯牙の健康状態を知るには、従来の齲蝕罹患率では正鵠をかくうらみがある。年代別、妊娠回数別のそれぞれの齲蝕罹患率は表2、図1の如くである。

表2 年代別妊娠回数別齲蝕罹患率 (D.M.F)

妊娠回数	20 ~ 29才			30 ~ 39才		
	人員	罹患 者数	(%P ± m%)	人員	罹患 者数	(%P ± m%)
1	221	184	83.26 ± 2.51	60	57	95.00 ± 2.81
2	132	116	87.88 ± 2.84	106	100	94.34 ± 2.24
3	78	72	92.31 ± 3.01	225	217	96.44 ± 1.23
4	19	15	78.95 ± 9.35	182	172	94.78 ± 2.03
5				97	95	97.83 ± 2.01
6				21	19	90.48 ± 6.40
7				12	11	91.67 ± 8.35
計	450	387	86.00 ± 1.56	703	669	95.16 ± 0.81

図1 年代別妊娠回数別ウ蝕罹患率

即ち20,30才代とも概して妊娠回数の増すに従い、高率を示している。また各妊娠回数において、いずれも30代が20代よりも高率を示す。これは増令により歯牙の健康度の低下を示すものである。20才代と30才代の総人員を見ると、20才代は86%、30才代は95%である。

3. 平均D.M.F.T.数

20,30才代別に各妊娠回数毎に平均D、M、F、T、数は表3、図2の如し。

表3 年代別妊娠回数別平均D.M.F.T.数

妊娠回数	20 ~ 29才		30 ~ 39才	
	人員	D.M.F.T.数 (M±m)	人員	D.M.F.T.数 (M±m)
1	221	3.59±0.08	60	6.62±0.74
2	132	3.55±0.10	106	7.57±0.58
3	78	4.65±0.42	225	7.62±0.38
4	19	4.95±1.53	182	7.34±0.41
5			97	8.08±0.68
6			21	6.67±1.03
7			12	4.84±2.61
計	450	3.80±0.17	703	7.57±0.22

即ち、20才代は妊娠1回のものが3.6で最も少く、回数が増すにつれ増加し、4回には5.0となつている。30才代も20才と同様に回数の増加につれ増している。

20,30才代の資料総計では20才代に3.8,30才代に7.6で30才代に明かに増加が見られる。

図2 年代別妊娠回数別D.M.F.T.数

Ⅲ 考按とむすび

私共は妊婦1153名について、妊娠と歯牙の健康度との関係を調べ、妊娠によつて歯牙の健康度の低下を来すことを知つた。この成因は妊娠そのものによるのではなく、妊娠により起る合併症とも言ふべき、内分泌変調、食物の偏食、つわりによる唾液の酸度増加等が大きく関与しているものと思う。

稿を終るに臨み、指導と校閲の労をとられた水島教授、荷宮教授に深謝し、併せて本資料を提供された川内保健所今泉やす子歯科衛生士に謝す。

引用文献

1. 荷宮：妊娠と歯牙健全との関係、九州歯科学会雑誌、8巻、1.2号、昭29.8
2. 山本：栃木保健所管内に於ける分娩回数と齲歯罹患率との関係、口腔衛生学会雑誌、1巻、1号、昭27.8
3. 平田：妊娠及び分娩による齲蝕の発生に就て、日本口腔科学会雑誌、4巻、2.3号、昭30.4

THE TOOTH HEALTH RATE IN RELATION TO THE NUMBER OF PREGNANCY

by

Yoshiaki Kaku

Tomotoshi Kadowaki

Department of Public Health (Director: Prof. Dr. Haruo Mizushima)

Faculty of Medicine, Kyushu University, Fukuoka

Department of Hygienics (Director: Prof. Dr. Fumio Ninomiya)

Kyushu Dental College, Kokura.

Changes in the tooth health rate (D.M.F.T.) in relation to the increasing number of pregnancy were statistically examined on 1153 pregnant women, and the following conclusion was reached.

With the increasing number of pregnancy the tooth health rate decreased.